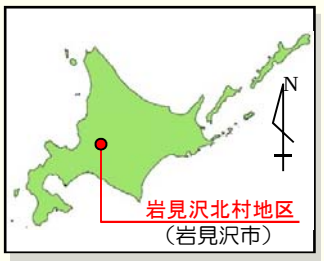
国営緊急農地再編整備事業

# 岩見沢北村地区




～ＩＣＴを活用した低コスト・高品質生産を実現する
未来につなぐ”強い　いわみざわ農業”の展開～

## 地区の概要

北海道第1位の水稲作付面積を誇る道内有数の穀倉地帯であり、食味が特に良好な「特A」米の産地となっている。さらに、水田の転作作物として、小麦、大豆のほかはくさい等の野菜生産にも力を入れており、水稲を基幹とした複合経営が展開されている。

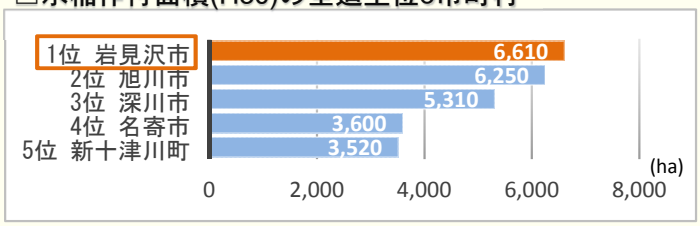
位　　置：北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯
関係市町村：岩見沢市
受益面積：1,393ha（田：1,360ha、畑：33ha）
主要作物：水稲、小麦、大豆、はくさい、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、ｽｲｰﾄｺｰﾝ

＜地区全景＞

「厳選された高品質米
”大地のこだわり情熱米”」

はくさい「地域ブランドである
”まるいわブランド”」
【全道一の作付面積】

□水稲作付面積(H30)の全道上位5市町村




## 地区農業の現状と課題

本地区は、農家数の減少により経営規模の拡大が進み、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいる。また、農地は、平均区画が0.4haと小区画であり、泥炭土に起因した排水不良を呈していることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来している。

また、岩見沢市で普及推進を図っている農作業機械の自動走行等のスマート農業の導入による省力化・低コスト化が進められない状況にある。

加えて、排水不良と労働力不足から野菜の増産が進まない状態となっている。

このため、現状の基盤のままでは今後、耕作放棄地が広域的に発生するおそれがあり、大区画化等の基盤整備が急務な状況となっている。

# 岩見沢北村地区の事業構想

## ■地区の生産基盤状況

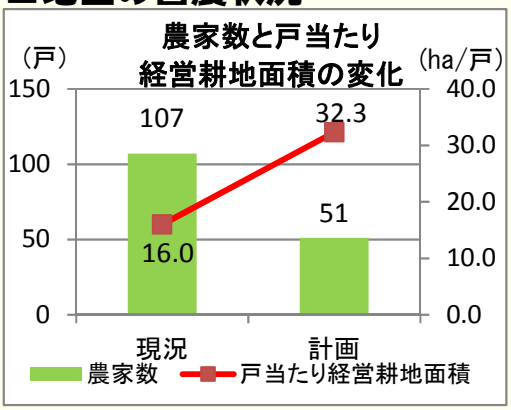
「0.5ha未満の小区画ほ場が9割を占める」

□小区画なほ場
□排水不良
□経営耕地が分散化（最大12団地に分散）

「泥炭土壌に起因した排水不良が生じている」

**耕作放棄地増加の懸念**

## ■地区の営農状況




「将来（約15年後）には、平均で30ha/戸規模に」

## 国営緊急農地再編整備事業の実施

ほ場の大区画化や排水改良による基盤整備と換地処分による担い手への農地集積を進め、耕作放棄地の発生を未然に防ぎ、農地の引き受け手である担い手が大規模な経営や高収益作物の生産を拡大できる土台を形成

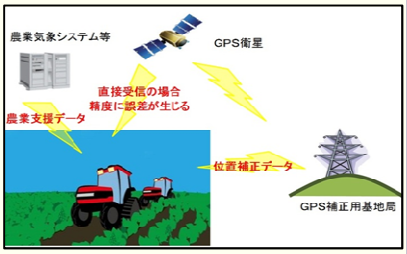
・ほ場の大区画化(0.4ha区画→2.4ha区画)　・排水不良の解消
・水管理の合理化　・担い手農家への農地集積

＜現況のほ場＞　＜整備後のほ場＞

## 生産現場：ICT活用によるスマート農業の取組み

○岩見沢市により高精度測位情報の配信が可能なRTK-GPS基地局を設置
○自動操舵システム等の導入によるスマート農業の推進

【GPSレベラー】【GPSｶﾞｲﾀﾞﾝｽ及び自動操舵システム】




【GPS位置データを活用】

## 担い手：農作業請負体制の構築

○既存の機械共同利用組合の取組拡大による農作業請負体制の育成
○共同作業体により集落単位での農作業の受託を行う生産システム化を進める

【小麦収穫における共同作業】

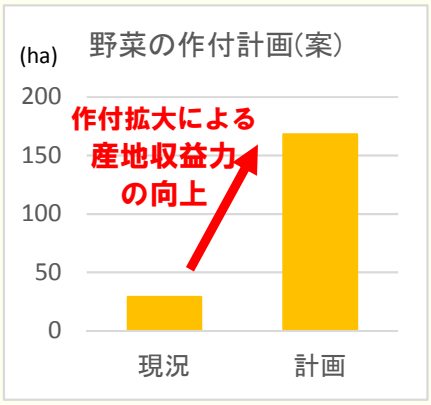
## 生産・加工・流通：野菜類を組み入れた複合経営の確立

○まるいわブランド（野菜類）を全国各地の市場・量販店へ出荷
○生産履歴やGAPの取組みによる肥料・農薬の適正使用のチェック

【全道一の作付面積】
【はくさいの収穫状況】（まるいわブランド）

## 経営規模及び高収益作物の拡大によって農業所得の増加・産地形成の強化

■共同作業体による農作業受託体制を構築し、労働力の軽減を図ることで「まるいわブランド」（野菜類）の生産拡大を図り、農業所得を向上




■ほ場の大区画化とともにスマート農業に取り組むことで農作業を最大限に省力化し、農作業時間縮減及び労働負荷軽減【米生産コストの低減】

■農家グループによる加工品開発などの付加価値向上向けた取組みを推進

【北の大地マルシェ】（直売施設）